

# 第5回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

開催日：令和4年11月8日（火）

会議形式：書面開催

## 1. 観光渋滞対策の目的とこれまでの経緯

- 各委員に意見照会を行い、観光渋滞対策の目的とこれまでの経緯が確認された。

## 2. ICT・AIを活用した現地実証実験（社会実験）の計画概要

- 現地実証実験（社会実験）計画について各委員に意見照会を行い、概ねの了承を得られた。委員からの主な意見は以下の通り。
  - トータルで見てこのプロジェクトも進んだと思うので、これから渋滞予測をして情報提供を行っていくことに問題は無い。
  - 今回は「実験」ということで、効果検証と検証結果に基づいた課題の抽出し、次のステップをどう考えるかが重要である。
  - 効果検証については、できるだけ実態に近い現象を捉えて分析することで、後々、実務的に役立つアウトプットが出てくると思われる。
  - アンケート調査に頼りすぎず、取得データの分析とともにナビの使われ方等も含めて検証を行うべきである。
  - 「観光」と「市民」は重要なテーマであり、ユーザー側の反応等も記録を取ってはどうか。
  - 今回の検証結果を踏まえ、ナビの経路案内中での効果的な情報提供や広告媒体等を検討し、ブラッシュアップした対策を次々と提案して頂きたい。
  - 実施にあたり、関係機関及び地元等と調整を行った上で、安全対策の徹底をお願いする。
  - 今後はインバウンドの増加が見込まれる中、より一層の混雑対策が必要となることから、本協議会での取組みと京都市を含む各主体の取組みと連携させることが重要である。

## 3. 実証実験に用いるAI技術

- AI技術の精度状況について報告を行い、各委員に意見照会を行った。委員からの主な意見は以下の通り。
  - 現状の予測精度を見る限り、かなり精度が上がってきてるものの、どこまでの精度を追い求めるかの判断が難しいところである。
  - 今回実測値と差異があったところについては、今年取得するデータで更に学習させて、来年度以降の実験に繋げて頂きたい。
  - 予測精度の向上に向けて、今まで取り扱わなかったような場所や時間帯の変数等、関係ありそうな指標も今後検証してみてもどうか。
  - 画像解析に方向別交通量については、かなり改善の傾向が見て取れているので、引き続き更なる改善に取り組んで頂きたい。